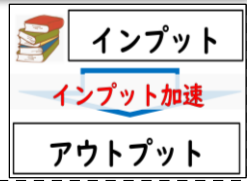


つきたい力

『主体性』～自ら動く、自らつながる、自ら学ぶ力～
→成長に向けて、主体的に情報を取りに行くことができる

取組みの概要・ポイント

- ① 「アウトプット前提のインプット」を大切にした学校図書館を活用した授業づくり
得た知識を使う機会を設け、さまざまな教科等で情報収集を行い、情報活用能力育成を図った。
アウトプットを前提とすることで、調べる意欲が向上し、インプットする速さが加速した。
- ② 生徒が主体的に本を読みたくなるしかけづくり
日頃から、意欲的に情報収集をして、知識を広げられる環境づくりを行った。



具体的な取組みの内容① アウトプットを前提として図書を活用する

1. 学習の基盤となる情報活用能力を意識した図書活用授業

全学年、全教科において、学校図書館を活用した授業を実施/多くの本に触れる機会づくり



資料を正確に読み取り、複数の条件に基づいて自分の考えを書く力
→必要な情報を見つける (情報収集力・活用力)

2. 「アウトプットを前提にしたインプット」を意識した図書活用授業

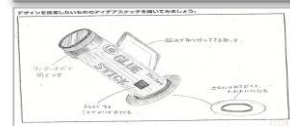
・「旅行会社社員になって、旅行プランを提案しよう」(3年 社会)

修学旅行ってどうやって決まるの？
という「知りたい」という気持ちをもとに、選択した国に関する情報を収集し、旅行プランを作成し、旅行会社の社員として、プランをプレゼンテーションをする活動を設定

・「UD商品を開発し世界に売り出そう」(1年 英語・美術)

美術で作成する、人を助けるためのユニバーサルデザインの商品を、広く世界へ紹介するために、パワーポイントを作成し、発表する場を設定

前日	日本出版
1日目	バンクーバー書籍センター ホテルのスタッフ(2人1000円5分)
2日目	ライスターにて探検・観光
3日目	スキー・スノーボード
4日目	バンクーバー探検



茨木市学校
図書館教育
の充実



具体的な取組みの内容② 主体的に本が読みたくなる場づくり

1. 主体的に本が読みたくなる魅力的な図書室づくり

- ① 多くの本の表紙が見える
表紙を見せることで貸出数が多くなる！
- ② オススメ本紹介
言語活動の成果物、本の帯なども一緒に配架
- ③ 美術部によるPOP掲示
まずは学校図書館に来てもらう！

配置による貸し出し数の変化を委員会でデータ分析

授業とリンクしたおすすめ本を次年度に残す

新刊本のポスターを作成し、廊下に展示

2. 本が読みたくなる動機づけ

- ・多読賞発表 → 学期ごとに、多く本を借りた生徒、クラスを表彰
- ・図書委員によるブックトーク → オンライン生徒集会にて、オススメの本を紹介
- ・古本市開催 → 希望する生徒に廃棄予定の本を配付

3. 学校図書館を活用した授業を行いやすい環境づくり

- ① 学校司書・ボランティアとの連携 → 物流の活用 → 活用した本のデータ化
- ② ブックトラックの活用 → どの教室でも本が利用可
- ③ 図書活用授業研修の実施 → 実践交流を通して、より良い授業づくり



取組みを通しての子どもの変容

- ① 主体的に情報を取りに行く生徒が増えた → 「わからないことや知りたいことがあったとき、自ら調べている」(7月・・・86%から、12月・・・91%)
- ② 図書室に来て、主体的に本を読む生徒が増えた → 図書来館者数が前年度12月時点より1年間で約20ポイント上昇
- ③ 積極的な情報活用をする生徒が増えた → 本やインターネットで調べたことをもとに自分の考えを書いたり、話したりしている。(4月・・・39%から、12月・・・47%)
- ④ 進んで取り組みたくなるアウトプットの設定により、教員の説明の時間を減らして生徒の活動時間を確保したことにより意欲的に知識・技能を獲得している様子が見られた。